課題名
リテラシー、コンピテンシーの社会文化的理论
— 英文による日本の文化と歴史文献収集によるアプローチ —

研究代表者名
有本 昌弘 （教育機情アセスメント講座）

研究組織等
八鍬 友広 （教育学講座）
イアン クラーク （フリーランス）

研究目的
これまで、教育のグローバル化が進む中で、英文による日本の文化と歴史文献収集は、断片的に行われてきているが、日本語でアクセスできるJICA (2003)『日本の教育経験：途上国の教育開発を考える』や、ローレンス・マクドナルド編著 菊地栄治、山田浩之、橋本鉱市監訳（2009）『世界から見た日本の教育（リーディングス日本の教育と社会第20巻）』があり、有益であった。しかしながら、リテラシー、コンピテンシーの社会文化的理論に関わる日本の学習者、社会文化論的視点からは、整理されたものがなかったと思われる。本プロジェクトは、この間隙を埋め、むしろ海外に向けた理論構築の礎とすることを目的とする。

経過
2018年6月 European Journal of Education 特集号 Volume 53, Issue 2 Special Issue: Are student assessments fit for their purposes? にて、Guest Editor Janet Looneyによる英米日のCommentaryの掲載に寄与

2018年11月 WALS 2018（北京）にて、公募シンポジウムでInto the gray zone of classroom assessment with school-wide perspectivesというシンポジウム企画

2019年2月 END (International Conference on Education and New Developments) 2019に、Using Classroom Assessment to Improve Pedagogy - the Japanese Experience -と題して、口頭発表の提案

成果と課題
『世界から見た日本の教育（リーディングス日本の教育と社会第20巻）』の編集者から、周辺の論文含めて取り寄せ、周辺を補強する論文のリスト（下記はその一部）を作成し、その一部は、国際学会でのシンポの企画や発表に生かすことができた。今後は、さらに学習の社会文化論的視点に焦点化していく。


MEXT. (2001). Education Reform in the 21st Century: Tokyo; MEXT.


